

ナースのための ART 医学セミナー2017
シンポジウム「ARTを斬る！」

東京、2017.05.21

リプロダクティブヘルスと不妊治療

井上朋子

HORAC グランフロント大阪クリニック

「リプロダクティブヘルス」は直訳すると「生殖に関する健康」ですが、「性と生殖に関するすべての人々の生涯にわたる健康を改善させ、身体的・精神的・社会的に良好な状態（wellbeing）とすること」という概念を含みます。1999年のカイロ国際人口・開発会議で定義され、同じく「生殖に関する権利」を意味する「リプロダクティブライツ」とともに、開発途上国においては、人口問題の解決や女性の地位向上を目指すためのキーワードとなっています。日本でもこの「性と生殖に関する健康と権利」の考え方が、男女共同参画社会基本法策定のための基本計画に毎回盛り込まれています。このことは生涯を通じた女性の健康支援が、日本のジェンダー平等政策を推進するために必須であることを示します。講演では、「リプロダクティブヘルス」の見地から、以下の点について不妊女性の健康をどのように守っていくかを考えたいと思います。

1. 現代日本女性の生涯の中で不妊治療期間はどのように位置づけられるのか
2. 不妊治療期間に得られた健康に関する情報を、将来の健康管理にどのように結び付けるべきか（多嚢胞性卵巣症候群・早発卵巣不全など）
3. 閉経後の健康管理や更年期障害について
4. 不妊治療を受けたことは将来の健康に影響するのか

生殖治療に携わっていると、妊娠することや無事に出産してもらうことだけが目標となりがちです。しかし、不妊治療を終えた後も女性はまだ人生の半ばで、これから長い期間を心身ともに健康に過ごさなければいけません。妊娠してもしなくても、いつか患者様を生殖医療施設から送り出すときに、ART ナースのみなさんがリプロダクティブヘルスのプロフェッショナルとして、女性の健康にとって大切な知識を、次のライフステージへの備えとして伝えてほしいと思います。